

専門技術を学ぶ場

基礎から応用まで幅広く

秋田技術専門校(小川充校長)には、システムエンジニアや機械の電子制御、情報通信技術(ICT)の技術者を養成する4学科が設けられています。このうち自動車整備科は、2級自動車整備士を養成しています。2年間の課程で座学と実習を行い、エンジンやブレーキ、電装品など全ての自動車部品の点検整備について、基礎から応用まで幅広く学びます。

本年度は1年生13人と2年生19人が在籍。9、10月に行われた応用実習では、2年生が自動車の点検や整備を行いました。入校してから1年半の間に身に付けた知識や技術を応用して、学生が自ら設定した課題に取り組む授業です。グループ



応用実習で、エンジンの取り外し作業を行う2年生



自動二輪車の整備に取り組むグループもあった

ごとに、実習用の普通乗用車のエンジンを取り外して分解したり、自動二輪車を整備したり。自家用車を持ち込み、気に入った色に塗装する学生たちもいました。

同校は県立施設であることを生かして、使用済みの公用車を実習に活用しています。県内自動車販売店の協力を得て最新の電気自動車も扱うため、新旧さまざまな車の整備を経験できることが特色です。2年生を指導する澤野樹世(しげとし)さんは「自由に課題を設定する応用実習を楽しみにしている学生は多いようです。今年の2年生は真面目で積極的。やる気を持って実習に臨んでいます」と話していました。

高校生向けに体験会

秋田技術専門校は、整備士などの技術者に関心のある高校生や一般の人たちが、養成課程の一部を体験できる機会を設けています。県内の実業高校で毎年体験講座を実施。高校生を対象としたオープンスクールも開催してきました。

オープンスクールは新型コロナウイルス禍を受けて2020年以降中止となっていますが、例年であれば、自動車の日常点検を体験してもらうのが恒例。エンジンオイルや冷却水の量を点検して不足分を継ぎ足したり、タイヤの空気を入れ直したりして、高校生が整備の一端に触れられるようにしてい



2019年8月に開かれたテクノスクールフェア。エアバッグの展開実験などが行われた

ます。

一般向けには毎年8月に学園祭としてテクノスクールフェアを開催。このイベントもコロナ禍で中止が続いていますが、小型エンジンの分解体験やエアバッグの展開実験が行われています。

～学生に聞く・技専校の魅力～



高橋 梨奈さん(20)

機械に触れ、経験積む💡

エンジンの分解と組み立ての実習は、専門学校など県外の養成機関では体験できない貴重な機会です。実習はグループごとに取り組むので、一人一人が機械に触れる時間をしっかり確保できます。

💡話し合いながら作業

応用実習では友人の車を塗装してカスタマイズしました。作業の進め方などを話し合いながら決めていくので協調性が身に付きます。作業中も休憩中も楽しくやっています。



二木 郁斗さん(19)



館岡 啓吾さん(19)

実践的な指導が魅力💡

2級整備士に加えてガス溶接の資格なども取得できます。資格合格のための知識と技術にとどまらず、より実用的な指導が受けられることが魅力。基本からしっかり学び、将来、整備の現場で役立てたいと思います。

💡先生にどんどん質問

自動車メーカーなど整備の現場経験が豊富な先生たちに指導してもらえます。どの先生も面白くて楽しいですよ。部品の構造や取り扱い方など、疑問に思ったことはどんどん質問するようにしています。



佐々木 駿也さん(20)